

2024年5月期 第3四半期 決算補足説明資料

2024年4月



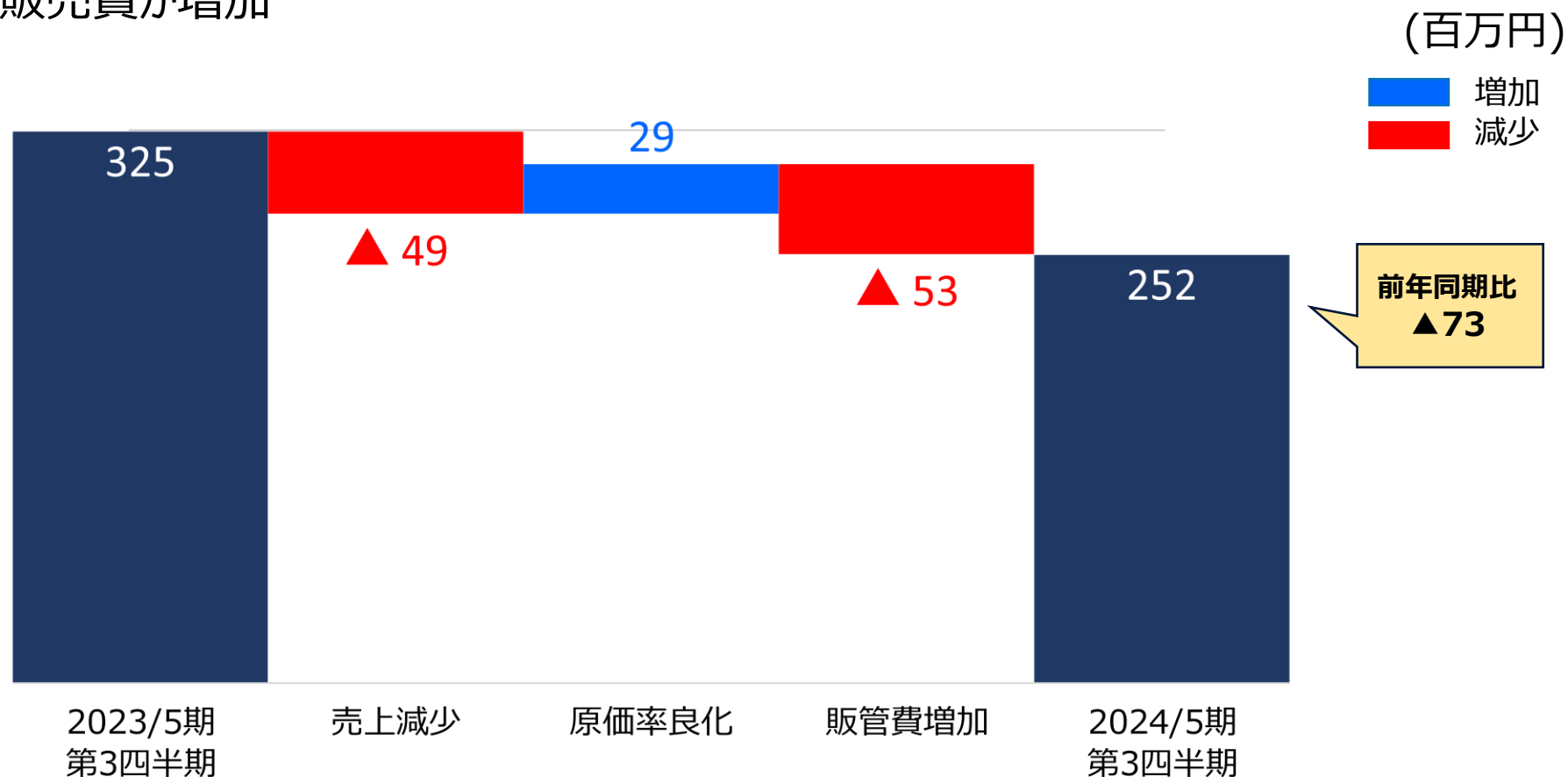
 **室町ケミカル株式会社**
(東証スタンダード 証券コード：4885)

- 売上は前年同期比で減少し、期初の想定をやや下回る
- 工場稼働率向上や売上商品構成の変化により原価率は3事業共に改善
- 販売費及び一般管理費については当初計画通りに推移

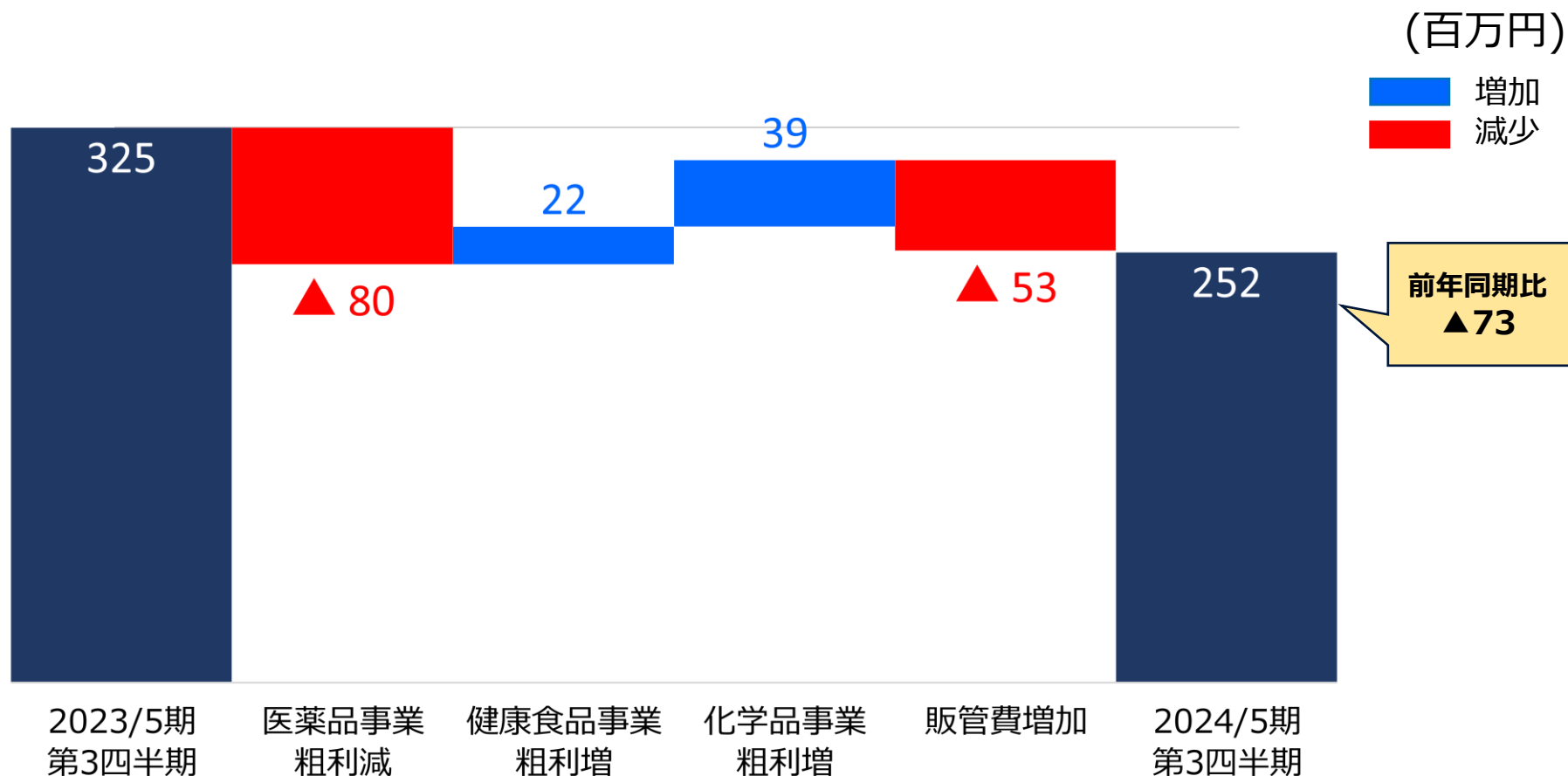
(百万円)

	2023/5期 第3四半期		2024/5期 第3四半期		前年同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	4,624	100.0%	4,455	100.0%	△169	△3.7%
売上原価	3,300	71.4%	3,150	70.7%	△150	△4.6%
売上総利益	1,324	28.6%	1,304	29.3%	△19	△1.5%
販売費及び 一般管理費	998	21.6%	1,052	23.6%	+53	+5.4%
営業利益	325	7.0%	252	5.7%	△73	△22.4%
経常利益	308	6.7%	245	5.5%	△62	△20.3%
当期純利益	230	5.0%	190	4.3%	△39	△17.2%

- 医薬品事業(主に輸入原薬)の売上減少
- 原価率は良化したものの、売上の減少により売上総利益が減少
- 研究開発費の増加に加え、海外営業の再開や展示会出展が増えたことにより、販売費が増加

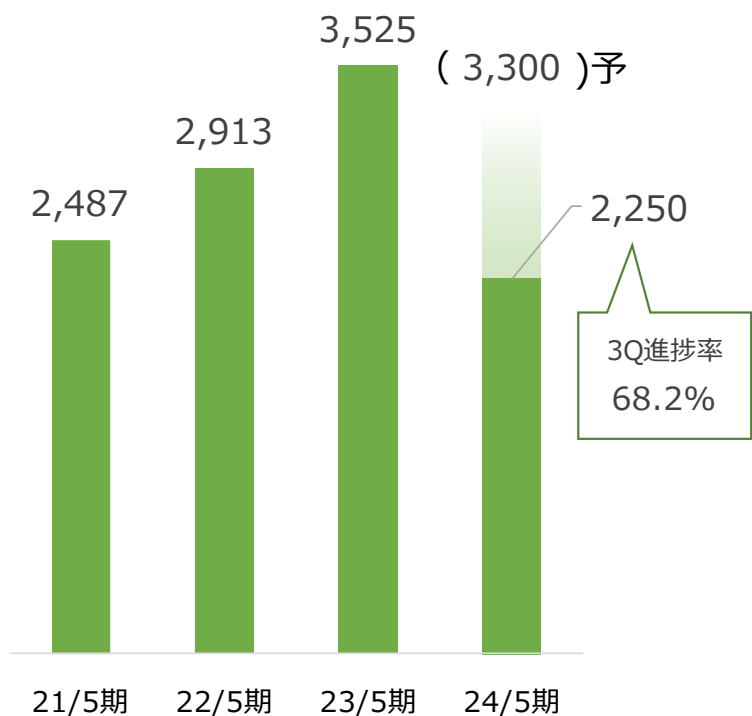


- 医薬品事業は、輸入原薬の売上減少により粗利減
- 健康食品事業および化学品事業は、売上が前年同期を上回り、製造効率改善と売上構成品目の変化により原価率が改善



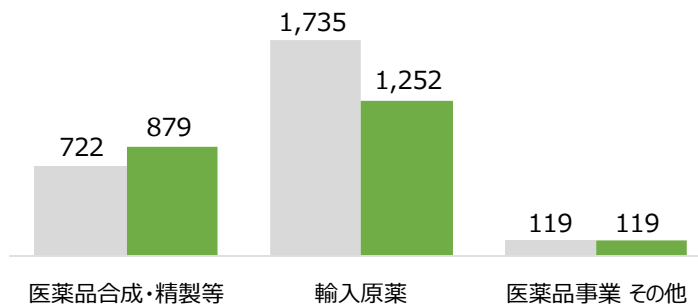
売上高	(前年同期比)	営業利益	(前年同期比)
2,250百万円	(86.5%)	313百万円	(73.7%)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



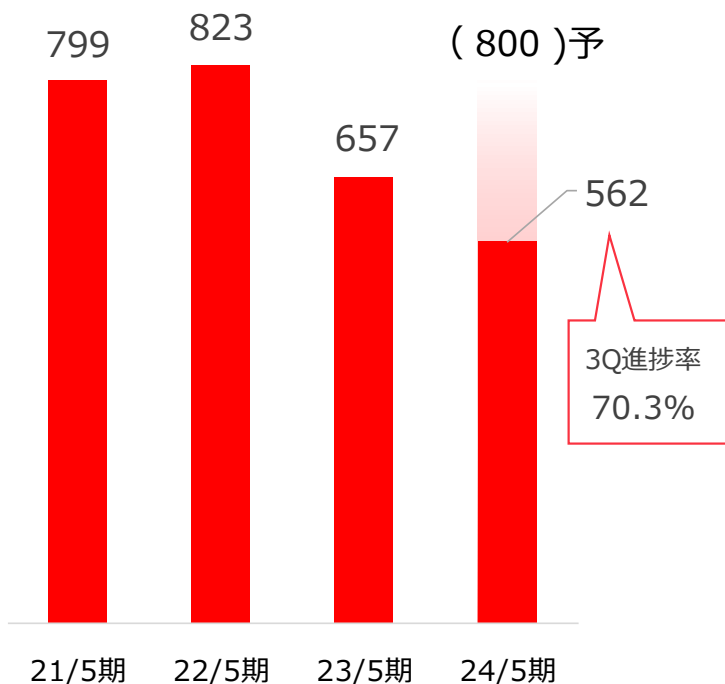
- 既存品の成長と新規合成品目立ち上げにより、自社製造品の売上が増加
- 輸入原薬は、主力の抗てんかん薬用原薬の一時的な需要増が収束し売上減少
- 開発費・販売費を積極的に投下中
- 新規の輸入原薬の取り扱いに向けた活動と、合成・精製等の自社製造案件の立上げに尽力する

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



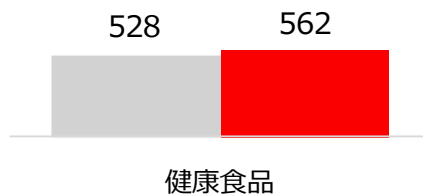
売上高	(前年同期比)	営業損失	(前年同期)
562百万円	(106.6%)	▲ 39百万円	(▲ 74百万円)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



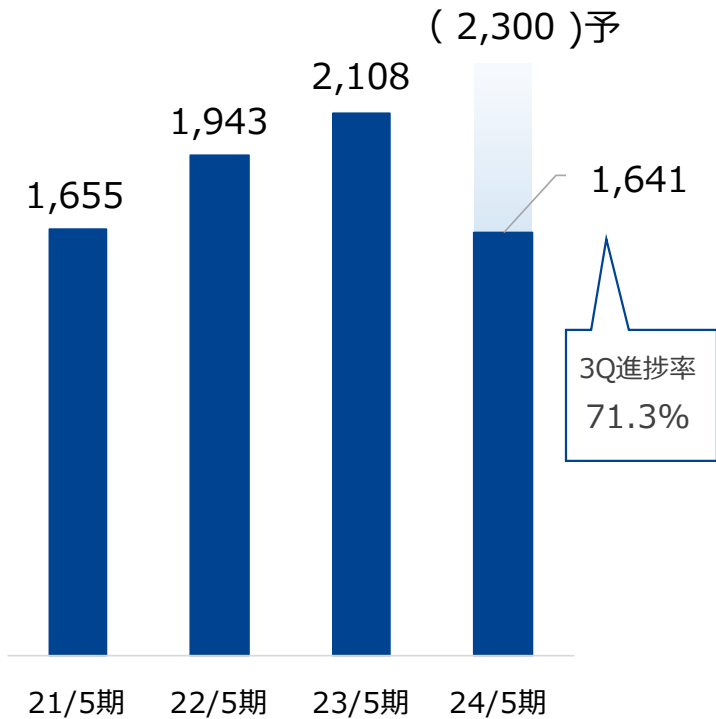
- 不調だった一部のOEM主力品の売上回復、および新規OEM品の上市による効果で売上伸長
- 工場稼働率向上と、仕入原料価格の高騰分を販売価格に転嫁したことにより、製造原価率が改善
- 製造原価低減策を継続するとともに、手元にある確度の高い開発案件を早期に受注する

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



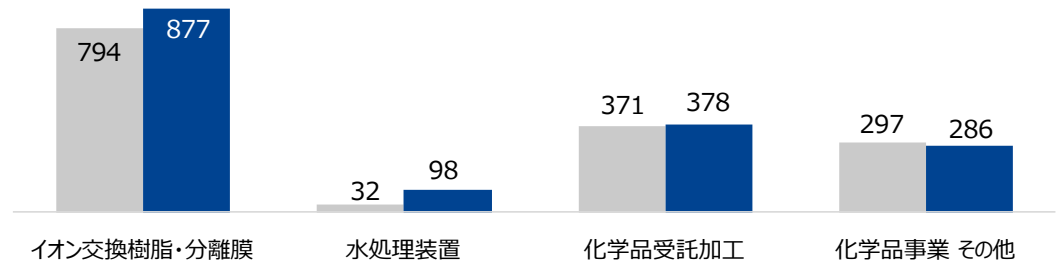
売上高	(前年同期比)	営業損失	(前年同期)
1,641百万円	(109.8%)	▲ 21百万円	(▲ 25百万円)

■ 売上高推移 (単位：百万円)

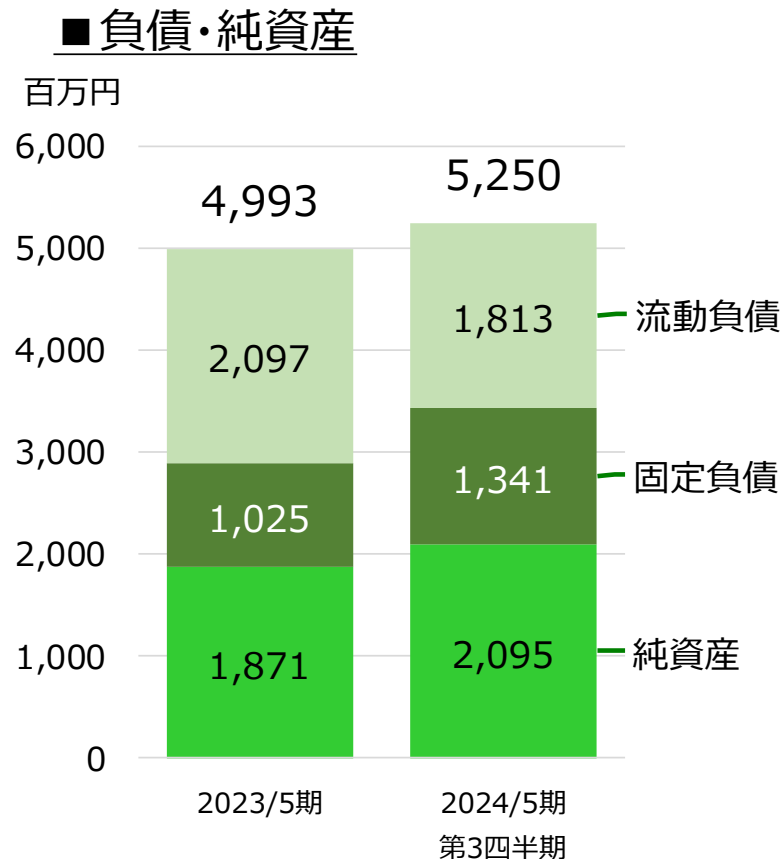
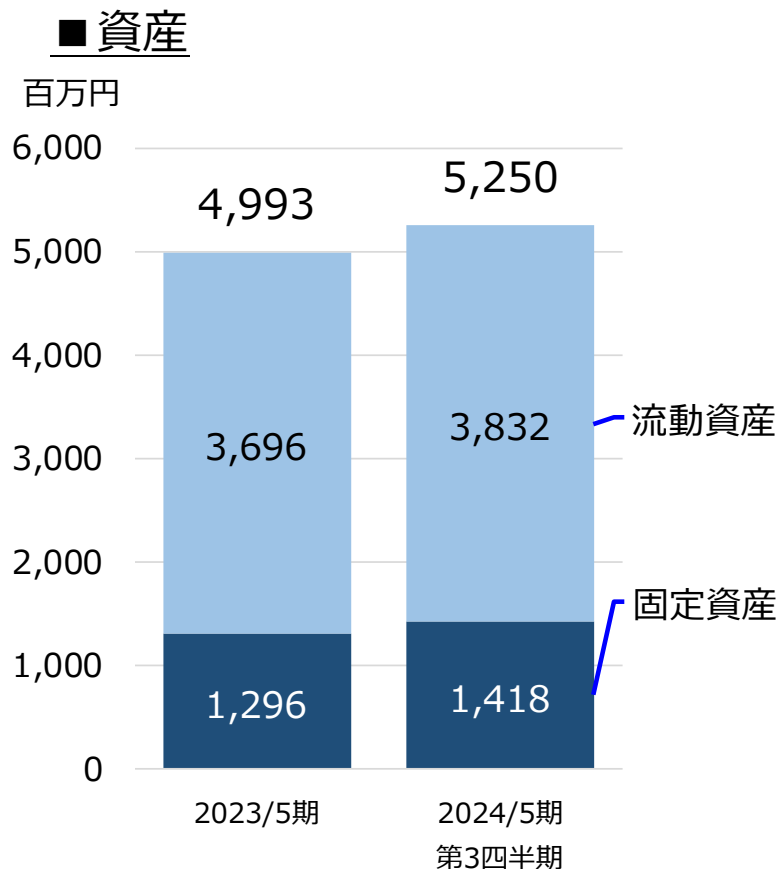


- 主力のイオン交換樹脂は仕入販売品の販売増（医薬品・化学品工場向けの新規案件を含む）により増収
- 高性能イオン交換樹脂への注目度の高まりや排水規制の強化等の追い風を受け、営業・開発活動を強化
- 新たな商品や当社の持つ技術をアピールするため、展示会出展や学会での講演・発表等を積極展開中

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



- 投資計画を見据えた財務戦略に基づき、借入金の長短バランスを調整
 (短期借入金：500百万円→100百万円、長期借入金*：1,068百万円→1,602百万円)
*1年内返済予定の長期借入金を含む



自己資本比率：39.9% (前期末比 +2.4pt)

- 売上進捗はやや遅れているものの、利益面は当初の計画通りに推移
- 第4Qの販売予定品目を考慮に入れ、通期の業績予想は据え置き

2024年5月期通期

業績予想の修正	無し	前期比
売上高	6,400百万円	101.7%
営業利益	400百万円	108.3%
経常利益	380百万円	108.3%
当期純利益	310百万円	121.0%
配当金	19.0円	
配当性向	24.2%	

参考資料



会社名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC.)
代表者	代表取締役社長 青木 淳一
設立	1947年7月 (創立: 1917年1月)
資本金	143,172千円
従業員	205名 (パート・臨時従業員を除く) 2023年5月末現在

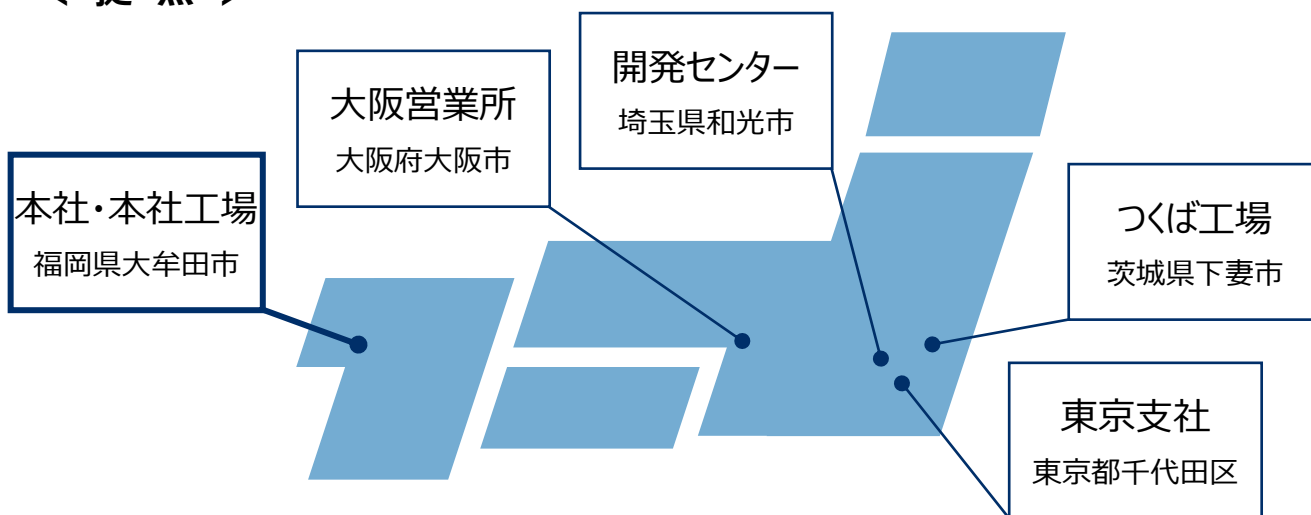


創立当時 (1917年頃)



大牟田市 本社工場

< 拠点 >



- 明治期** 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始
- 1917年** 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立
- 1924年** 福岡市東区に移転『天洋社』と改称
- 1938年** 福岡市南区に移転。
- 1944年** 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業
- 1947年** 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立
- 1948年** 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立
- 1950年** 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。
- 1952年** 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称
- 1971年** ムロマチグループに参入
- 1996年** 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転
- 1998年** 『室町ケミカル株式会社』に社名変更
- 1999年** 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得
- 2003年** 本社隣接地に物流倉庫新設
- 2005年** 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設
- 2006年** 健康食品製造工場操業開始
表面処理工場操業開始
- 2009年** 新事務所竣工
- 2010年** コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退
- 2010年** 室町(上海)商貿有限公司設立
- 2011年** 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受
- 2013年** 新勝立倉庫竣工
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転
- 2014年** 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し
100%子会社化
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併
- 2016年** つくば工場にインキ接着剤工場を新設
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設
- 2017年** 東進ケミカル株式会社を吸収合併
大牟田本社に医薬品合成工場を新設
- 2018年** 天洋社薬品株式会社を吸収合併
- 2019年** 埼玉工場を閉鎖
- 2020年** 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設
- 2021年** 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

< パーパス >

「健康」と「環境」をテーマに、社会へ貢献する



< 経営理念 >

私たちは人々との出会いを大切にし、
常に新たなチャレンジと実現化の努力により生きがいと豊かさを提供し、
健全な発展を通して社会に貢献する経営を目指します。

「医薬品」「健康食品」「化学品」の3事業

医薬品事業

医薬品原薬（薬の有効成分）の製造・販売



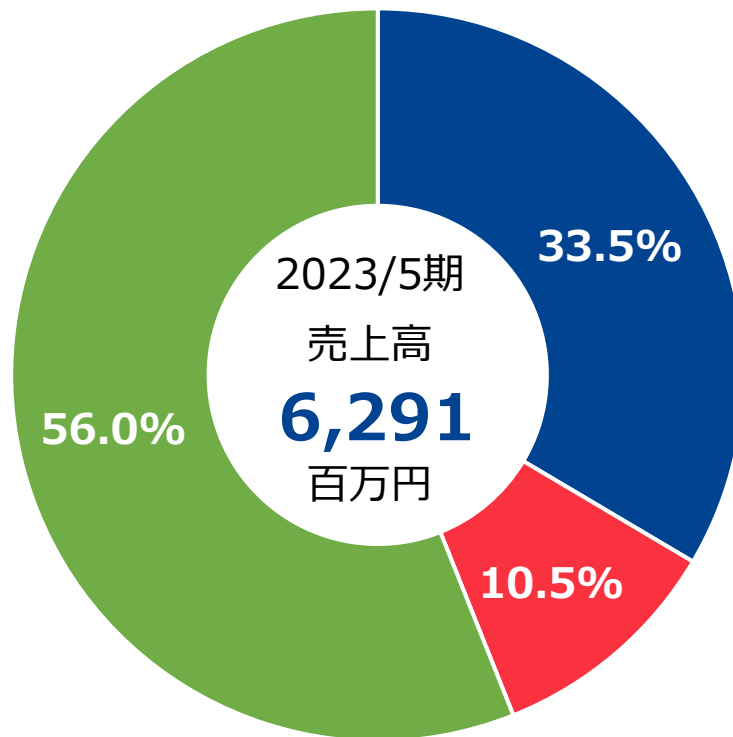
原薬の製造



原薬の精製・異物除去



海外原薬の輸入販売



化学品事業

液体から不純物を取り除く液体処理製品の販売・加工



イオン交換樹脂



分離膜



水処理装置



イオン交換樹脂再生設備

健康食品事業

スティックゼリータイプなどの健康食品の企画・製造



スティックゼリー



Tパウチゼリー

長年培った技術を活かし、お客様の事業をサポートします。

医薬品 事業

メーカー機能と商社機能を併せ持ち、原薬に関わる様々なサービスを提供

品質と価格を満たす原薬を調達できる「商社機能」と医薬品製造の「メーカー機能」を併せ持ち、原薬に関するトータルサービス（輸入・製造・加工・分析）を提供します。

健康食品 事業

高度なマスキング技術で、求める“おいしさ”を具現化

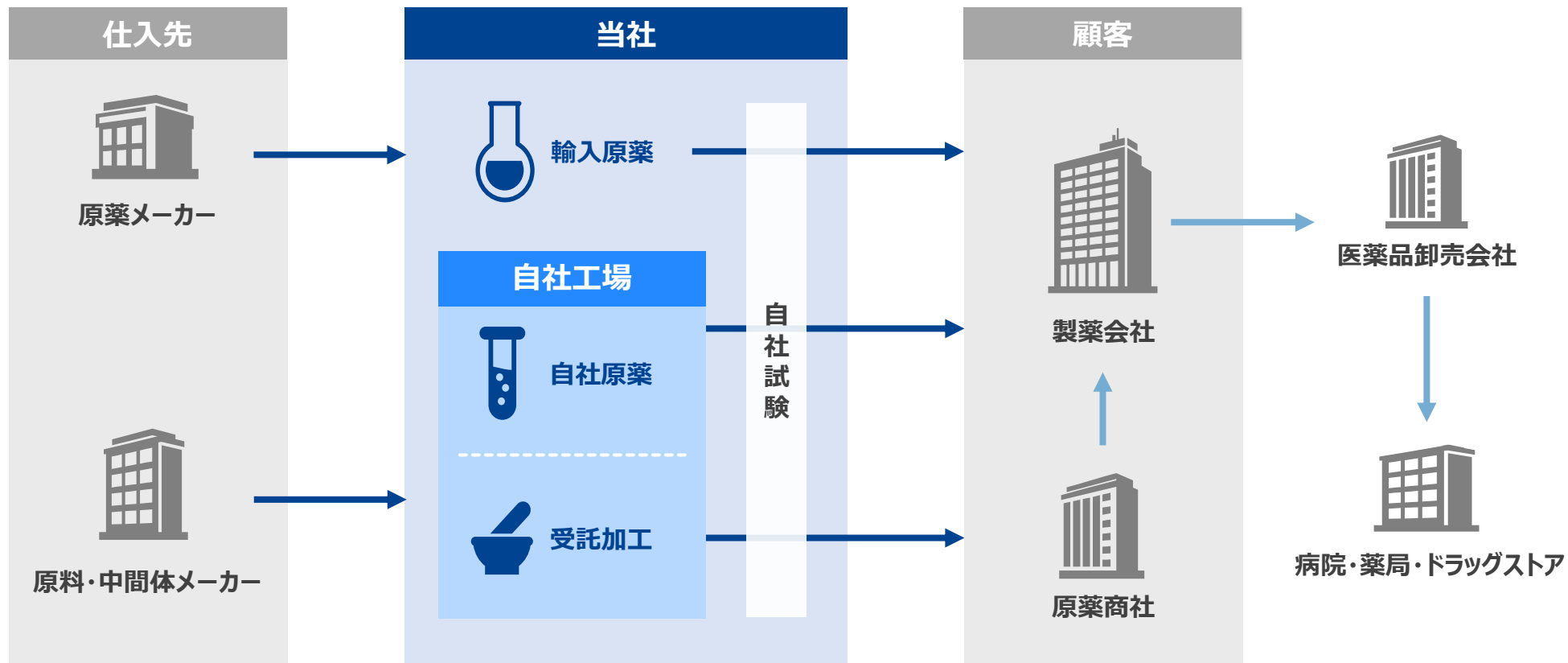
健康・美容成分には食べづらい味や匂いのももありますが、それらを包み隠す「マスキング技術」で、続けることが大切な健康食品にとって重要な「おいしさ」のご要望にお応えします。

化学品 事業

特殊な用途にも対応できる技術で液体処理の課題を解決

排水の処理や薬品の精製などの特殊な用途でも、豊富な製品ラインナップと長年培ってきたノウハウで最適な製品や処理方法をご提案します。

病院や薬局などで提供される医薬品は、有効成分となる「原薬」と様々な添加剤で出来ています。当社の医薬品事業では、この「原薬」の製造・販売を行っています。現在当社が取り扱っている原薬は、医療用医薬品* (ジェネリック医薬品*) 向けが主となっております。



* 医療用医薬品(医家向け医薬品)

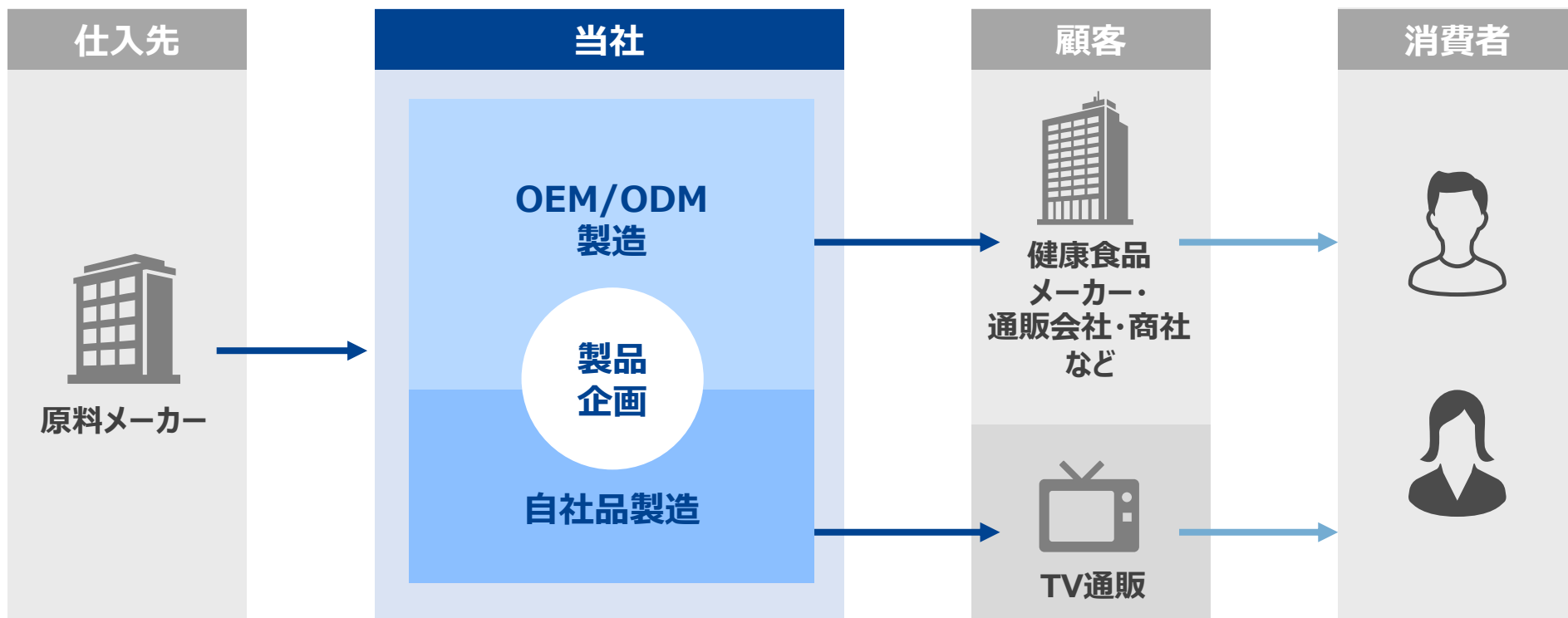
・・・病院で医師の診断をもとに処方してもらう薬のこと。対して、薬局等で購入できる薬を一般用医薬品(OTC薬品、市販薬)という。

* ジェネリック医薬品(後発医薬品)

・・・新薬(先発医薬品)の特許が切れた後、同じ有効成分を使って製造される薬。新薬に比べ開発費用が抑えられるため低価格で提供される。

健康食品には、錠剤、カプセル、粉体、ドリンクなど様々な形態がありますが、当社は、「スティックゼリー」タイプの健康食品の企画・製造を行っています。現在は、OEM・ODM*が主となっており、売上の8割を占めています。

スティックゼリーの健康食品は、おやつ感覚でおいしく、水が無くても摂取できる、携帯しやすい、などの特徴があります。



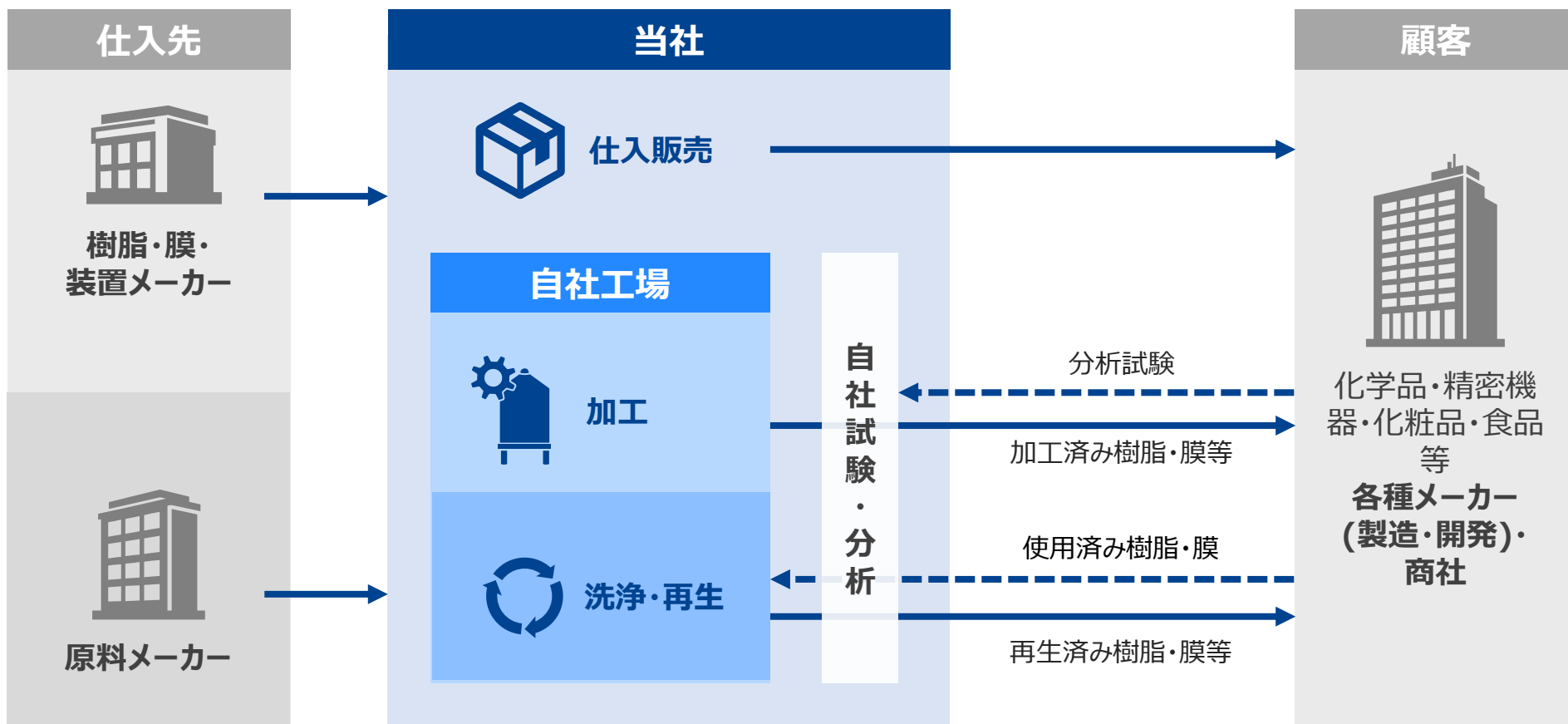
* ODM (Original Design Manufacturing)

…発注元企業のブランド名で販売される製品の、製造のみを行うOEM (Original Equipment Manufacturing) に対し、ODMは企画や設計、製造までを行う。

液体処理に使用される「イオン交換樹脂」や「分離膜」を取り扱っています。目的に適した製品の提案をするほか、使用に適するよう加工も行います。

様々な業界の製造や開発の現場で使用される純水や軟水の製造、薬品の精製、排水の処理など、活用される場面は多岐にわたります。

他に、接着剤やペーストなど機能材料の加工や販売をおこなっています。



∞ ひろがる、ケミカル。

 室町ケミカル株式会社

(東証スタンダード 証券コード：4885)

<https://www.muro-chem.co.jp/>

〈本資料に関するお問い合わせ先〉

室町ケミカル株式会社 経営企画室

E-mail : ir-kikaku@muro-chem.co.jp

〈本資料取扱上の注意点〉

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。また、実際の業績等は様々な要因により変動する可能性があります。

掲載の内容については未監査の数値も含まれており、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は投資家の皆様に当社をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。